

2025年2月吉日

会員各位

2025年度 愛知県病院薬剤師会がん部会 参加者募集のお知らせ

一般社団法人 愛知県病院薬剤師会 会長 山田成樹
愛知県病院薬剤師会 がん部会部会長 宮崎雅之

「愛知県病院薬剤師会がん部会」は2014年に発足し、がん薬物療法を学びたい方、専門・認定薬剤師の取得を目指す方、専門・認定薬剤師を取得し更に研鑽に励む方など、多くの薬剤師を支援する会として活動しています。

当会は、他施設の薬剤師との連携や交流を深め相互に切磋琢磨することで、薬剤師としてのモチベーション維持に役立つ場、および日常臨床での疑問や相談に対応できる場として、多くの先生方が継続して参加されています。参加者はグループに分かれて活動しますが、経験豊富な運営委員が丁寧にサポートし、その成果を学会発表や論文投稿など様々な形で積極的に発信しています。

新型コロナウイルスの影響により集合しての活動が行えない状況においても、Web ミーティング、メーリングリストの活用など、時勢に応じた手法を用いてグループごとに積極的なコミュニケーションを図り、新規臨床研究計画の立案、学会発表や論文投稿などの成果を上げることができました。

2025年度においても、集合やWeb開催を組み合わせる部会活動を積極的に進めていきます。この度、下記の通り募集しますので、多くの先生方のご応募をお待ちしています。また新たな活動に関しても是非ご提案ください。

同じ志を持つ仲間と一緒に活動し、愛知県のがん薬物療法の発展に貢献していきましょう。

記

1. 対象 所属長の許可を得た病院薬剤師、薬局薬剤師、薬学部教員で年間を通じて継続参加可能な方
(日本病院薬剤師会非会員の方は愛知県病院薬剤師会特別会員への入会が必要です)
2. 開催 2025年4月から～2026年3月(1年間) 原則月1回
3. 場所 原則 web 開催 (集合研修可能となれば名古屋市内および近郊の公共施設などで実施予定)
4. 内容 がん領域について臨床研究、教育活動などを多施設の薬剤師と共同して実践する
各グループの活動内容は次頁の通り
5. 募集人数 100名程度
6. 募集締切 2025年4月11日(金)
7. 参加費 (集合開催の場合) 1回あたり500円(但し、報告会や学術講演会は別途参加費が必要)
8. 申込方法 登録サイト (<https://forms.gle/eqKs7q1dQqPbctCy7>) で必要事項を入力し送信
QRコード



9. 第1回定例会 未定
各担当運営委員より案内があります。
10. 問合せ先 愛知医科大学病院 薬剤部 堀田 和男 (E-mail: k2hotta@aichi-med-u.ac.jp)

グループ活動内容

【Clinical question (CQ) を解決していきたい方】

がん薬物療法において日々遭遇する臨床疑問や問題点を解決する手段として、臨床研究の実施が有用とされています。今年度は、これまでに開始した取り組みを継続し、以下の2グループにおいて臨床現場で感じる Clinical Question(CQ)をディスカッションし、臨床研究を立案、文献調査、研究計画書の作成、各施設の倫理委員会の申請、承認後、データを収集し、解析して、CQに対する答えを導いていくことを目指します。

臨床研究の組み立てから学会発表、論文作成に至るまでの過程を、経験者のサポートにより実現していきます。臨床研究未経験の方、研究テーマはあるが症例収集が難しい方など、多施設による共同研究を通じて情報交換し、お互いに刺激し合いレベルアップしましょう。

・がん薬物療法に関する臨床研究グループ

(担当運営委員：豊橋医療センター 井上裕貴、名古屋記念病院 壁谷めぐみ、三河乳がんクリニック 佐々木俊則、愛知医科大学病院 堀田和男、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 佐藤由美子)

昨年度までは、がん治療の効果のグループと支持療法のグループに分かれて臨床研究や情報交換を行っていましたが、若手の先生などがより参加しやすい環境を目指して、グループを統合して活動することになりました。

昨年度の実績としては、学会発表を3演題、論文投稿は「Risk Factors for Thrombocytopenia Induced by Capecitabine Plus Oxaliplatin Therapy in Patients With Colorectal Cancer」が、In Vivo. 2024 May-Jun;38(3):1243-1252.に一般論文として掲載されました。現在、研究計画中および調査中の課題は、化学療法誘発悪心・嘔吐について乳がん・胃がん、代謝阻害薬、腫瘍崩壊症候群、高齢者機能評価に関する研究などに取り組んでいます。

毎月の定例会では、臨床研究以外にも症例検討や日常業務の疑問について検討、情報共有する「お悩み相談コーナー」も行っています。がん関連の経験が浅い初学者から経験豊富なベテランまで、和気あいあいとした雰囲気です。がんに関する研究を多施設で行いたい先生方や施設を越えた横のつながりを希望される先生方は、是非ご参加をお待ちしております。

・緩和薬物療法グループ

(担当運営委員：名城大学 築山郁人、一宮西病院 後藤健志、刈谷豊田総合病院 江崎秀樹)

私たちのグループは、緩和領域に興味のある方々のさまざまなニーズにお応えできるグループです。臨床研究を行いたい方や、研究手法を学びたい方、緩和薬物療法の基礎を学びたい方、他施設との情報共有を求めている方など、どなたでも参加できます。今年度は、初学者やこれから認定試験を受ける中級者のために、有資格者を講師として緩和薬物療法研修会も実施しました。総勢37名で活動しており、月に1回グループ全体会を現地もしくはオンラインで開催しています。症状緩和班、サイコオンコロジー班、ポリファーマシー班、オピオイド自己管理班の4班で研究活動を行っており、学会発表も行っています。また、緩和領域に関する疑問や困った症例を相談・共有し、解決する場も設けています。新年度もグループ活動を通じて、皆さんと一緒に学んでいきたいと考えています。

まずは気軽にご参加ください！ぜひ一緒に活動しましょう！

【Clinical question (CQ) を共有し学びたい方】

・ワークショップ (WS) を通じてがん治療における医療連携の在り方を考えるグループ

(担当運営委員：一宮市立市民病院 岩田智樹)

グループDには、病院薬剤師と保険薬局薬剤師が参加しており、参加者それぞれがCQを提示しSGD形式などを取り入れた全員で共有できる情報交換の場として医療(薬業)連携を視野に入れた他職種参加型のWSなどの企画、運営などを行いながら診療ガイドラインに準じた基本的な知識の修得だけでなく、臨床の現場で活かせる実践的な学習をしていきたいと考えています。

今年度は、集合開催やWebを取り入れたWSを計画しています。薬業連携に興味がある方は、是非参加していただき顔の見える関係を作りながら一緒に連携の場を広げていきましょう。

・ツール作成グループ

(担当運営委員：KKR 東海病院 川合甲祐)

診療ガイドラインは、経験の浅い薬剤師にとって難しいと感じることがあったり、副作用対策や薬物療法の内容が十分ではなかったりすることがあります。当グループでは、診療ガイドラインに沿って薬剤師の必要とする情報をがん種ごとにまとめた「消化器癌 Reference book」の作成・更新を行い、愛知県病院薬剤師会のホームページにて会員向け公開しています。また、がん薬物療法における副作用に焦点をあてたツールの作成も検討中です。

がん治療に携わる薬剤師の教育や業務支援となるツールの作成に取り組みましょう。